

▶ 環境マネジメント

## 環境マネジメントをどのように推進していますか？

JR東日本グループでは、環境保全への取り組みを推進するために、環境マネジメント体制の強化に努めています。また、社員一人ひとりの環境に対する意識の向上を図るために、環境教育を継続的に実施しています。

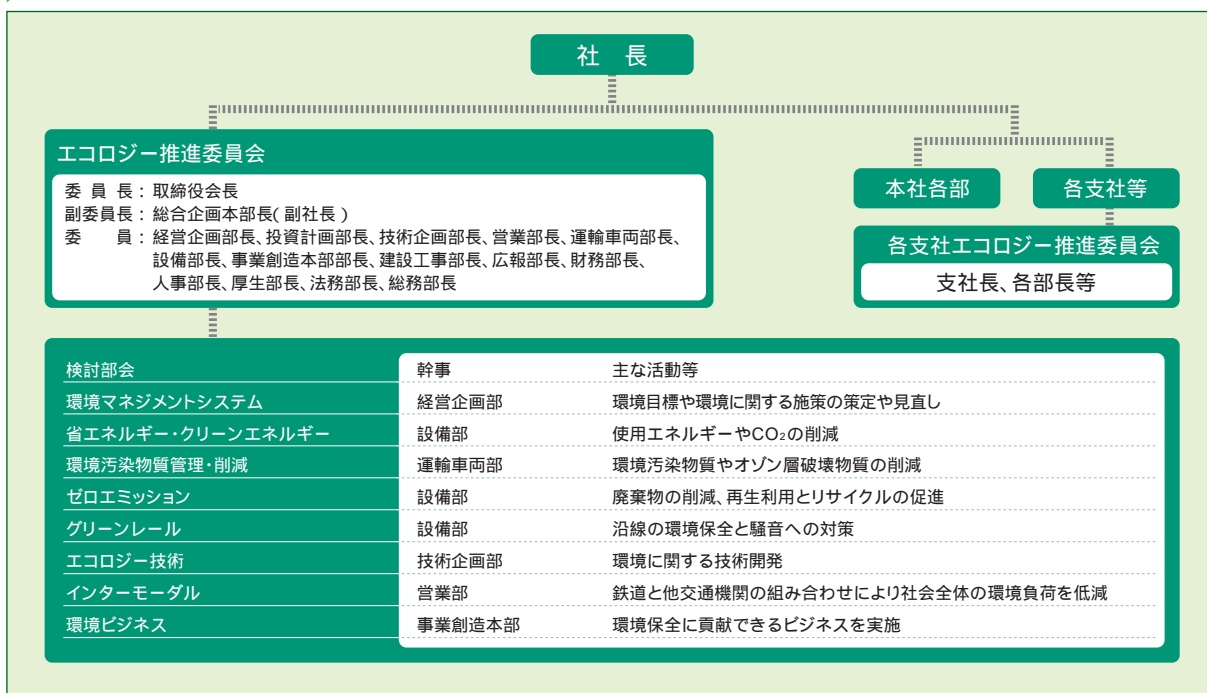
### 環境マネジメントの推進

#### 社内の推進体制

JR東日本では、事業活動に伴う環境影響の調査や環境目標の設定、環境保全活動の実施、目標達成度の確認、経営層によるチェックなどを確実に実行するために、エコロジー推進委員会を設けています。同委員会は取締役会長を委員長とし、各部門の責任者を委員とする社内横断組織で、事務局は経営企画部に設置しています。

2004年度も引き続き、全グループ社が参加する「JR東日本グループ環境経営推進会議」を開催し、グループ全体での取り組み強化について議論し、活動を展開しました。

#### ▶ 環境マネジメント推進体制



### ISO14001の認証取得

環境マネジメントシステムの国際規格、ISO14001については、環境負荷が比較的大きい個所を中心に取得を進めています。1998年度の新津車両製作所での取得を皮切りに順次取得、2004年度には新たに長野総合車両センターも認証を取得しました。

グループ会社では、(株)東日本環境アクセス、(株)ルミネ、(株)日本レストランエンタプライズ(商品製造部門)の各社も認証を取得しています。



長野エリアで車両のメンテナンスを行う長野総合車両センターでも、2004年度にISO14001認証を取得しました

### ▶ ISO14001の取得状況

| 認証取得サイト     | 年月       |
|-------------|----------|
| 新津車両製作所     | 1999年 2月 |
| 川崎発電所       | 2001年 3月 |
| 東京総合車両センター  | 2001年 3月 |
| 新潟機械技術センター  | 2001年 3月 |
| 大宮総合車両センター  | 2002年 3月 |
| 新幹線総合車両センター | 2002年11月 |
| 郡山総合車両センター  | 2003年12月 |
| 長野総合車両センター  | 2005年 2月 |

### 内部環境監査の状況

JR東日本では、エコロジー推進委員会を中心としてPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルに基づいた環境活動を推進しています。

例えば総合車両センターでは、環境活動を自らチェックする取り組みとして、部外講習などで内部監査員を養成し、定期

的な監査を行っています。内部環境監査では、変更された排水処理設備に対する環境側面の再評価が実施されていなかった点などが指摘され、それらについて改善しました。

### 環境リスクマネジメント

化学物質の管理を厳格化することによって、環境事故を未然に防ぐ体制づくりに取り組んでいます。

火力発電所や総合車両センターなどの化学物質や危険物を取り扱う現業部門では、異常時の対応マニュアルを整備しています。同時に勉強会や処理訓練を実施、関係者への周知徹底を図り、現場で的確な対処ができるよう努めています。

### 環境関連の事故

2004年6月磐越東線、2004年7月水郡線にて線路内除草を行った際、除草剤の散布方法が適切ではなかったために沿線農作物に被害を与えるという事故が発生しました(詳細は39ページを参照)。

### 「JR東日本エコ活動」の試行

JR東日本では、「環境について考える風土」を醸成し、各職場における具体的な環境保全活動を活性化させる「JR東日本エコ活動」を全社に展開していきます。2004年度は八王子支社にモデル現業機関7カ所を設定し、試行を開始しました。

### 環境教育の実施

環境経営の推進には、全社員が環境問題に対して正しい知識を持つことが重要です。そのため、採用時や昇進時に環境教育を行っているほか、環境に関する講演会の開催や通信研修の環境関連講座受講により、2004年度には延べ2,700人の社員が環境教育を受けました。

なお、2004年度は、全グループ会社の環境担当者を対象とした研修を新規に実施しました。また、社会環境報告書環境ダイジェスト版を全社員へ配布しています。



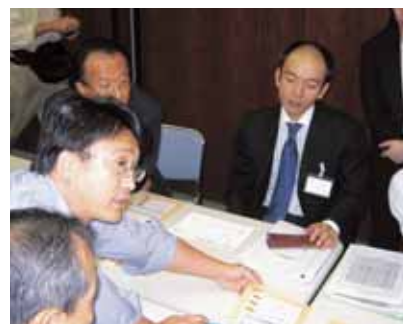
社会環境報告書環境ダイジェスト版を全社員に配布し、また社内報「JRひがし」でも情報を提供

### 環境への取り組みに対する評価・表彰

JR東日本では、社員の環境保全への取り組みを評価、奨励しています。

例えば、2004年12月の第18回小集団活動発表大会では、盛岡新幹線車両センター八戸派出所の「北進ファイターズ」サークルを奨励賞として表彰しました。

同サークルでは、冬期に、これまでは凍結防止のために流し放しにしていた車両洗浄水について、圧縮空気によりホース内の水を完全に抜くことで節水に取り組みました。これにより年間583トンの水資源の使用を削減できました。



グループ環境担当者研修では、日本環境教育フォーラムと共同で開発した「環境経営戦略ゲーム」を実施

### ▶ 2004年度環境教育実施状況

| 研修・講演会      | 回数 | 参加人数   |
|-------------|----|--------|
| グループ環境担当者研修 | 1回 | 111人   |
| 新任現場長研修     | 8回 | 177人   |
| 実践管理者育成研修   | 1回 | 198人   |
| 新入社員研修      | 1回 | 1,398人 |
| 環境講演会など     | 5回 | 644人   |
| 通信研修        |    | 180人   |